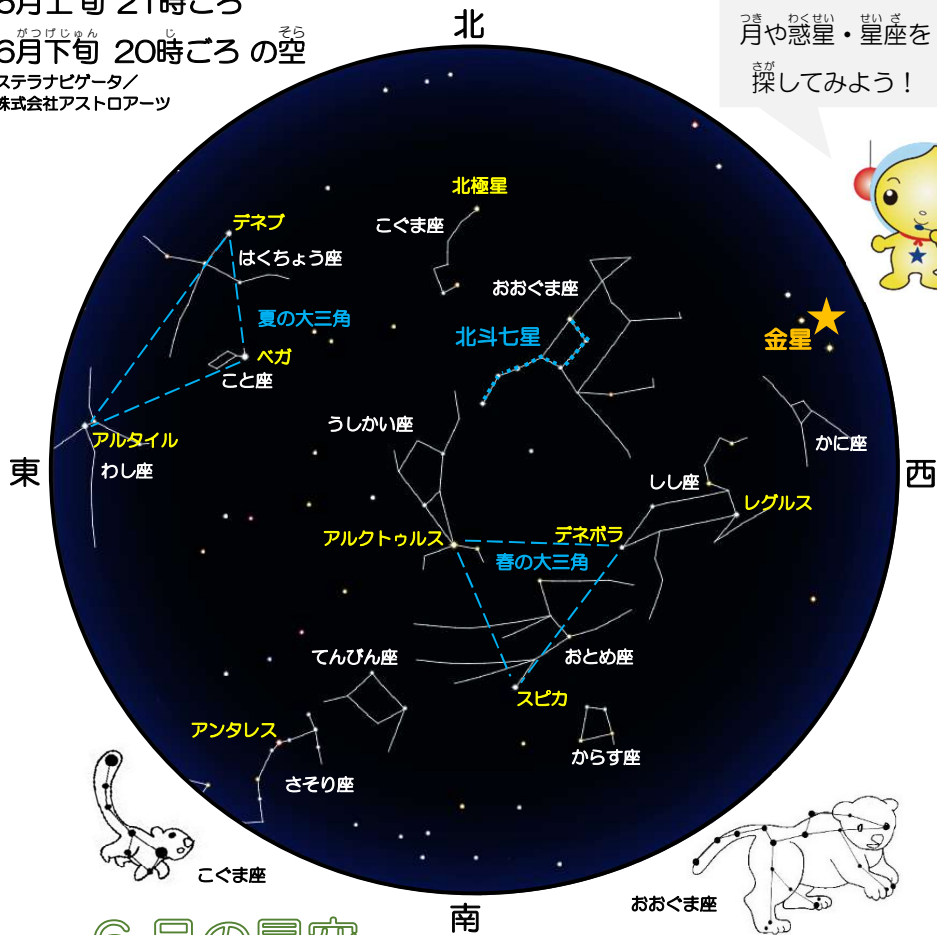


月刊 星空の散歩道 6月号

2026年

6月上旬 21時ごろ
6月下旬 20時ごろの空
ステラナビゲータ/
株式会社アストロアーツ



6月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

西の空と南の空に春の星座が、東の空に夏の星座が見えています。

- < 西 > しし座 (レグルス)、デネボラ
- < 天頂 > うしかい座 (アルクトゥルス)
- < 南 > おとめ座 (スピカ)、さそり座 (アンタレス)
- < 東 > こと座 (ベガ)、わし座 (アルタイル)、はくちょう座 (デネブ)
- < 北 > こぐま座 (北極星)、おおぐま座

☆天文トピック☆



6月9日 金星と木星が大接近
日没後、西の空で金星と木星がとて近づいて見えます。

6月17日 月と木星が大接近
近くには金星・水星も

日没後、西の空で月と木星がとて近づいて見えます。双眼鏡があれば水星も観察できるかもしれません。

6月21日 夏至
北半球では1年の中で最も昼の時間が長い日。

☆月の形の変化☆

- 6月8日 下弦 
- 6月15日 新月 
- 6月22日 上弦 
- 6月30日 満月 

☆6月の惑星☆

- 金星…日没後、西の空
- 木星…日没後、西の空
- 水星…日没後、西の空低く
- 土星…明け方、東の空

<天文コラム> 宵の明星「金星」

日没から1時間ほど経った、まだうっすらと青さが残る西空に、一際明るく輝く星が見えます。「宵の明星」とも呼ばれる金星です。

金星は、地球と同じ惑星のひとつで、太陽の周りを内側から2番目（地球は3番目）のところで回っています。惑星は太陽の光を受けて輝いており、地球より内側を回る星は、地球から見ると満ち欠けをするように見えます。肉眼では点にしか見えませんが、望遠鏡では月のように欠けた金星の姿を観察することができます。

金星は地球と直径や質量がほぼ同じであるため、「双子星」とも呼ばれます。しかし、二酸化炭素の分厚い大気に覆われていて、地表面の気圧は地球の約90倍、温室効果の影響で温度は400度を越えています。また、金星の公転周期(*1)は約225日ですが、自転周期(*2)は約243日です。しかも、自転方向が地球とは逆向きです。これらのことから、金星の1日（夜明けから次の夜明けまで）は地球の約117日分になります。

「双子星」といっても、地球とはずいぶん違ってきます。これでは簡単に人類が住めそうにはありませんね。

(*1) 公転（太陽の周りを回る：地球の公転周期は1年＝約365日）

(*2) 自転（地軸を中心に一周する：地球の自転周期は1日＝約24時間）



望遠鏡で見た金星
当館職員撮影

